

練馬区の将来像を考える区民懇談会
区民生活分野分科会
第6回 議事概要

日時：平成20年1月18日（金）18:30～20:30

場所：練馬区役所本庁舎19階 1902会議室

出席者【50音順】

市川恵子、奥村隆史、尾崎九一、川端法子、清水幸子、戸田一誠、西塚正美、平野一枝、
本山裕一、若井治子、

1. 討議

（1）本日の進め方・最終報告に向けた検討の進め方について

－コーディネーターおよび事務局（コンサルタント）から、本日の進め方について説明した。

（2）グループ討議：具体的な事業のアイデアと将来像の実現に向けた取り組みの方向性について

－3グループに分かれ、中間報告結果にもとづいた、将来像の実現に向けた具体的な事業のアイデアと、取り組みの方向性について検討を行った。

－各グループの討議結果をそれぞれの代表者が発表した。

*Aグループ（絆とやすらぎの町）：

川端法子、清水幸子、西塚正美

*Bグループ（誰もが生き生き暮らせる元気なまち）：

市川恵子、奥村隆史、若井治子

*Cグループ（農緑（のうりよく）を育むまち）：

尾崎九一、戸田一誠、本山裕一、平野一枝

【討議結果の要旨】（詳細については別紙「第6回懇談会で抽出された取り組みの方向性と具体的な事業のアイデア」参照）

■Aグループ：（絆とやすらぎの町～安全・安心のまちづくり～）

・先日、目指すべき将来像を中間報告に書いたが、この中にコミュニティと安心して暮らせるやさしいまちづくりと、楽しく安らげるまちというのが、大枠で将来像に書かれている。また、課題に何をすべきかもある程度書かれている。

- ・ これらを目安にして、取り組みの方向性として、まず、「a)近隣コミュニティの活動基盤の強化を図ります」、「b)地域活動を活発化し、交流とふれあいを推進します」の二つを立てた。
- ・ a)と b)は両方交流だが、a)は地元の町会、小学校、地元の商店街など、どちらかという地域と地域の小さなふれあい・交流、b)は区が主導する、公民館や区民館など施設で文化や芸術を志向する人達が集まって交流を図るものである。
- ・ さらに、「c)安心して暮らせるやさしいまちをめざします」を方向性として立て、災害、犯罪や事故の防止、最後に「d)楽しくやすらげるまちをめざします」を方向性として立て、将来像を中心にして4つの方向性を立てた。

■ Bグループ：(誰もが生き生き暮らせる元気なまち)

- ・ 中間報告書5ページの囲みの中のアスタリスクごとに項目を分けて、事業を書き出した。
- ・ 「a)誰もが尊重されるまち」は人権尊重、男女共同参画がテーマである。公共施設や商業施設で保育施設・トイレ・休憩室の整備、バリアフリーの推進、保育所の充実などを提案している。
- ・ 「b)生きがいを見つけられるまち」は若者の就業等活躍の場、年輩者の生きがいがテーマである。具体的には、若干 A グループと重複するところがあるが、学校や商業施設の活用、小さなつながり運動、町会参加運動、町会役員の定年制・任期制の導入などを提案している。
- ・ 「c)文化を守り生み出すまち」は地域の伝統文化・創造的文化がテーマである。地域の行事を大切にすまちや、区民の文化祭週間などを提案している。
- ・ 「d)身近で魅力ある商店街」は、商店街の生き残りを考える会を作ることや、タウンマネジメントをもっとしっかりしたらどうかという提案である。また、人が集まる商店街の形成事業として、これまでの人通りを増やすことを中心とした取り組みから、何時間滞在できるかを重視し、広場をつくるなど仕掛け作りを提案している。
- ・ 「e)活力ある地域産業」は、楽しい公園を作ろうという世帯間交流の提案、都市経営的なビジョンづくりとして住宅地単一機能のまちからの脱皮、まち中の工場や印刷屋さんなどが働きやすいような産業団地の整備、農業の法人化支援などを提案している。
- ・ 「f)健全で安定した行政」では、区民が考える練馬の会では様々な形で区民の意見が反映できる行政を提案している。また、生き生き練馬放送番組の創設による文化、産業、行事、生活、事業等に関する公報の充実、生き生き活動援助事業として区民の団体活動・グループ支援、住民参加の推進とノウハウの蓄積などを提案している。
- ・ 「g) その他」として、地域の子どもや大人の集まりに利用できる身近な小さな集会所などを充実させ、地域を愛することができるようになるよう区民の声を広く募集・紹介することを提案している。

■ Cグループ：（農緑（のうりょく）を育むまち）

- ・ 語呂合わせで分かりやすいように作ってみた。
- ・ 「a)全緑疾走」は、練馬区全体を緑で覆う取り組みで、例えば屋根・屋上、そういったところに必ず緑を置くように行政指導をすることや、環七環八など主要道路の街路樹を整備し、ガードレールではなく緑で覆うなど、練馬区全体を緑で覆うということである。
- ・ 50年くらい前の練馬区は見渡す限り畑だらけだった、という風景を残そうということで、「b)原風景ネリマ」を立て、練りコレに参加しているような業者と農家が協力し合えるような組織づくりを提案している。
- ・ 「c)魅^{みりょく}緑記念日」は、ことあるごとに緑に関連するイベントをやっていこうというもの。これを区が後方支援してほしい。例えば、既に行われているものに誕生記念樹がある。また、手軽に苗木を購入できるよう、神社仏閣の境内を利用して定期的に植木市を開催することを提案している。さらに、みどり防衛作戦として神社・仏閣・学校・公園など住民が参加して緑を維持するための会合を持つことを提案している。要するに、緑を植えればいいのではなく、緑をいかに維持し続けるかが大切だということである。
- ・ 「d)起業戦隊」は、農業をやりたくなった人に対して、固定資産税の減額や収穫物をJAとかが高く買い取るなど区が支援することを提案している。また、ニートの逆襲として、就職をしていない若者の労力を小規模農家の支援などに活用することも提案しており、そこでは、ある程度本人の自信がいたら練馬区内に就職してもらうことも狙いとしている。さらに、公園近くの区民を組織化し、公園の落ち葉を集め、それを農家に提供し、農家で腐葉土にしてもらって活用する。
- ・ 「e)農緑開発機構」は、教育の一環として子ども達に農業体験を通じて植物の生態系や実際に農業とはどういったものなのかを体験してもらい、10年後、20年後、30年後に彼らが思い浮かべられるような体験をしてもらうことが狙いである。

2. その他

- ーコーディネーターが他分科会から当分科会への意見、要望と今回の各グループが抽出した事業アイデアを照らし合わせ、概ね対応できていることを確認した。
- ー次回は、今回抽出された事業アイデアを事務局が整理したものを題材として、取り組みの方向性と具体的事業のアイデアを再検討し、最終報告の取りまとめに向けた議論を行うこととする。

（以上）